第213回 上級 工業簿記 ①

問題 1

問 1

仕損品評価額 [④ 1,500,000] 円

完成品総合原価 〔 ④ 83,162,000 〕円

問2

1.	経営目的に関連しない価値の減少	3
2.	異常な状態を原因とする価値の減少	3
3.	税法上とくに認められる損金算入項目	
4.	その他の利益剰余金に課する項目	3

問3

月末仕掛品原価 〔 ④ 23,972,000 〕円

異常仕損費 [4 2,127,200] 円

完成品総合原価 〔 ④ 81,634,800 〕円

問4

月末仕掛品原価 〔 ④ 24,780,480 〕円

異常仕損費 [④ 1,618,560] 円

完成品総合原価 〔 ④ 81,334,960 〕円

問5

月末仕掛品原価 〔 ④ 24,676,800 〕円

異常仕損費 〔 ④ 1,722,600 〕円

完成品総合原価 〔 ④ 81,334,600 〕円

問6

度外視法で完成品と月末仕掛品の二者が正常仕損費を負担するため、異常仕損費を分離把握した後、

正常仕損量を度外視して計算する。

7



第213回 上級 工業簿記 ②

問題2

問 1 月末仕掛品 [⑤ 6,000] kg

間 2 月末仕掛品 [⑤ 5,200] kg

問3

仕掛品

月初仕掛品	(5)	63, 483, 200	製品	(5)	749, 680, 000
A材料		218, 000, 000	月末仕掛品	(5)	309, 224, 000
B材料	(5)	104, 624, 000			
加工費		672, 796, 800			

問題3

特徴	牧 通常の原価計算では価値移転的計算を行うが、連産品の原価計算では負担能力主義に基づく						
	価値回収的計算が認められる。	⑤					
理由	^抽 連産品ごとに原料消費量や作業時間を測定することができず、投入と産出の因果関係が						
	不明であるため。	⑤					

○数字は予想配点

第213回 上級 原価計算 ①

問題 1

問	1								
	製品P	[3	2, 100	〕円/個	製品Q	[3	3,000 〕円/個
問	2								
	製品P	[⑤	6, 000	〕個	製品Q	[⑤	250 〕個
	営業利益	[3	5, 020, 000	〕円				
問	3								
	製品P	[⑤	4, 500	〕個	製品Q	[⑤	2,000 〕個
	営業利益	[3	7, 120, 000	〕円				
問	4								
	製品P	[⑤	5, 000	〕個	製品Q	[⑤	2,000 〕個
	営業利益	ſ	③	7. 250. 000) Н				

問5

機械のリースによりプロセスBの生産能力をフル活用することができ、その結果製品Pの生産販売量が

500個増加し、貢献利益が1,050,000円増加する。しかし、リース料が合計で920,000円発生するため、

営業利益は130,000円の増加となる。

10

第213回 上級 原価計算 ②

問題 2	
問 1	
(③ 変動製造マージン)	
問2	
損益分岐点売上高 〔 ⑤ 3,000,000 〕千円	
安全余裕率 [⑤ 25] %	
問3	
固定費の修正項目として処理する。 ④	
その理由: 営業外の損益は営業量に比例しないため ④	
問 4	
経営レバレッジ係数 [⑤ 4]	
計算過程: 2,400,000千円÷600,000千円=4 ③	
問 5	
営業利益増加額 〔 ⑤ 240,000 〕千円	
計算過程: 600,000千円×10%×4=240,000千円 ③	
問 6	
4	
全経電機の安全性は(改善した)・ 悪化した ・ 不変である。 ←○で囲むこと。	
その理由: 安全余裕率が25%から約31%に上昇したため ④	

○数字は予想配点